

1. 事業者によって大きく異なる金額

相談例

相見積りをとったが、見積書の体裁や金額が異なるため比較できなかったケース

相談概要

- 【工事内容】プロパンガスから都市ガスへ変更する工事、システムキッチン・洗面化粧台・給湯機の交換、壁・床の張り替え等
- 【住宅形式】戸建（木造2階建）
- 【相談内容】3社から見積りをとったところ、事業者によって見積書の体裁や金額が異なるため、内容の比較ができない。一番安い金額を提示した事業者に依頼した方がいいのかとも思うが、妥当な金額であるかなど不安を感じている。見積書をチェックしてほしい。

相談者から送付された資料

- A社見積書(1,500,000円)、計画図面 ●B社見積書(2,000,000円) ●C社見積書(1,400,000円)

見積チェック

チェックポイント 比較表の作成

- 見積書ごとに項目・数量・単価等をチェックした後、各見積書で表記が異なる項目名を共通にして比較表を作成。各事業者の見積内容の違いを明らかにした。

チェック内容

- 事業者によってガス工事の有無、外構工事の有無、和室工事の有無など、工事内容が大きく異なっているため、見積総額に差が出ている。

	A社	B社	C社
仮設工事	-	26,500	-
解体工事	94,000	78,000	78,950
木工事	172,500	158,000	270,000
大工手間（設備）	103,000	63,400	-
内装工事	45,000	8,500	42,000
設備機器工事	39,400	41,000	83,900
キッチン工事	437,000	413,500	511,000
洗面台工事	47,000	98,000	75,000
サニタリーパネル	16,800	24,300	22,700
ガス工事	140,000	200,000	-
舗装工事	108,000	150,000	-
門扉工事	-	93,800	-
和室工事	-	309,500	-
給湯器工事	254,000	241,000	250,000
諸経費	43,701	95,275	66,678
小計	1,500,401	2,000,775	1,400,228
値引	-401	-775	-228
合計	1,500,000	2,000,000	1,400,000

工事内容が
異なっている。

※「-」は、見積書に計上されていない項目。

チェックポイント 相談ニーズ

- 相談者は、各事業者の見積書の項目の表記が異なっているため、工事内容の比較をすることができなかった。そのため、見積総額で比較した結果、最初に好感を持ったB社を予算オーバーにより選択から外さざるを得ず、一番低い金額を提示したC社を選択しようと思っていた。また、「ガス工事」「舗装工事」については、ガス供給会社に直接依頼し、「和室工事」「門扉工事」については、予算縮小のため中止する予定であった。

チェック内容

- ガス供給会社に直接依頼する工事（「ガス工事」「舗装工事」）や中止する予定の工事（「和室工事」「門扉工事」）を除いて、同じ条件で集計したところ、下表のようにB社が一番低い金額であることが分かった。
- 相見積りをとる際は、工事範囲・工事内容・仕様等、同じ条件で依頼することが肝要。

	A社	B社	C社
仮設工事	-	26,500	-
解体工事	94,000	78,000	78,950
木工事	172,500	158,000	270,000
大工手間（設備）	103,000	63,400	-
内装工事	45,000	8,500	42,000
設備機器工事	39,400	41,000	83,900
キッチン工事	437,000	413,500	511,000
洗面台工事	47,000	98,000	75,000
サニタリーパネル	16,800	24,300	22,700
ガス工事			
舗装工事			
門扉工事			
和室工事			
給湯器工事	254,000	241,000	250,000
諸経費	36,261	57,610	66,678
合計	1,244,961	1,209,810	1,400,228

条件がそろっていない項目を除いて集計。

同じ条件で集計すると、B社が一番低い金額であることが分かった。

※「-」は、見積書に計上されていない項目。

相談者への助言内容のまとめ

- 相見積りの場合、項目をそろえて比較表を作成することで、項目の有無など事業者によって見積内容の異なる部分が明確になる。
- 見積総額で比較するのではなく、工事内容などの条件をそろえて比較することが重要であると助言した。
- 工事範囲・工事内容・仕様等をよく検討し、同じ条件にそろえ、再度見積りを依頼することを助言した。